

資料 4

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第 23 期・第 12 回）議事録（案）より

日時：平成 29 年 9 月 17 日（日）10：00－12：00

議事：

1. フューチャーアースと SDGs について：氷見山委員長から国際地理学連合(IGU)によるフューチャーアースの支援体制、山形委員から海洋研究について現状と課題が紹介された。
2. JpGU2018 年大会について：
氷見山委員長からこれまで同様フューチャーアース関連のセッションを開設する予定である旨報告された。
3. 出版計画について：英文の方に関しては進展しているがゴールには到達していない状況であると氷見山委員長から報告があり、まだ原稿を提出していない方は今月中に必ず提出していただきたい旨要請があった。和文についても同様に 11 月中には提出いただきたい旨連絡があった。
4. 来期の分科会への申し送りについて： 氷見山委員長より、本分科会は大変活発に活動し、シンポジウム、提言、出版などについてもトップクラスの成果実績を有していることが報告され、来期も引き続き継続して活発な活動を続けるべきであるという分科会委員の総意が確認された。続いて出席委員全員が一言ずつ発言した。
 - ・人間社会との関係の観点が大事なのではないか。社会との「協働・協創」に取り組めたのは良かった。
 - ・文系と理系が「情報」などを共通のキーワードとして協働することが重要だが、文理融合は予算がつきにくい。大型研究が物理に著しく偏っているのは問題ではないか。
 - ・INQUA 分科会を率い、INQUA 名古屋大会を成功させた。災害対応でも成果があったが、今後益々重要になるだろう。
 - ・地球温暖化への対策について、来期にはぜひ取り上げて欲しい。
 - ・INQUA 大会でフューチャーアースセッションを開催できた。JpGU2018 の大会実行委員長なので、そこでも是非盛り上げて欲しい。
 - ・新たに必修化される「地理総合」といった科目の中身を充実させるのが地理教育分野の責務であり、それに資する活動を地球・人間圏分科会でも進めて欲しい。1000 年スケールの洪水ハザードマップには違和感がある。
 - ・統合的水資源管理は本来水と土地の統合に関わるものだが、いろんな解釈がなされている。理学と社会を結ぶところに技術があり、その連携が重要である。
 - ・IGU 担当であった。IAP の statement のとりまとめにも関わった。災害に係る地名を残すことも大事なのではないか。
 - ・地下データの情報公開が大事である。
 - ・GEWEX/GHP/MAHASRI に関して取りまとめを行ってきた。
 - ・土壌物理が専門。第 2 部では 6 つの分科会で活動した。土壌の分野との連携を次期には深めて欲しい。
 - ・Web-GIS は今後発展が見込まれる。アジアでの地理情報整備が大事なのではないか。
 - ・地図が専門。地図は図的な言語であり、人の認知なども関連した分野である。
 - ・フューチャーアース関連の海洋調査プロジェクトを構築した。SDGs のテーマレビューで 2017 年 6 月に国連本部での会合に参加した。
 - ・当初は分科会名に違和感があったが、人文系が尊重されているのはよくわかった。市民を巻き込んだ地図や GIS(地理情報システム)が益々重要になるだろう。
 - ・社会貢献分科会でも活動した。DUAL use について当分科会でももっと議論した方が良いのではないか。分科会同士の連携も大事だと思う。

- ・東日本大震災の後それに関する活動に追いまくられていた。地域再建を軸に考えてはどうか、と思う
- ・地震の発生頻度が変化していなくとも、地震災害報告数は増えている。真剣勝負の議論が大事で、それにより友人を失うというよりは友人が増える。自然災害に対する脆弱性はある程度地価に反映されているのではないか。
- ・日本学術会議は学者の集まりだが、その限界がこの間さらに顕在化してきたのではないか。教育がまだまだ軽視されている。防災も含めた地球・人間圏科学と社会との関係強化はまだまだ道半ばであるので、来期以降も積極的に推進していきたい。

5. その他

12月に開催されるv「ちきゅう」見学会の予定について再確認された。